新入社員
研修

会社のしくみ

指導用マニュアル

これは商品の一部を抜粋したサンプルです
商品詳細は下記のページをご覧下さい
https://m-advice.co.jp/shop/item/s02/

mac

このマニュアルについて

このマニュアルはインストラクター（講師）が研修を実施する際に、手元において活用するために作られたものです。マニュアルは基本的な研修の流れ、シートには内容のアウトライン（概要）を記載しております。
マニュアルやシート、ワークシートは、利用権のある方々が、研修ニーズや状況に合わせて、手順や内容を加筆、修正して活用しても構いません。むしろ研修効果を挙げるために内容を加筆、修正して実施する方が望ましいかもしれません。またインストラクターによっては、研修を展開するパターンが異なりますので、自己のパターンにあわせ大幅に修正し、活用することも必要になると思います。
このマニュアルとシートを参考に、新しいレッスンプランを作成して、効果的な研修の実施にお役立ください。

マニュアル、シート、ワークシートの使用上の注意点

これは商品の一部を抜粋したサンプルです
商品詳細は下記のページをご覧下さい
https://m-advice.co.jp/shop/item/s02/

マネジメントアドバイスセンター（以下当社）が販売する研修用マニュアル、ゲームマニュアル等の著作権は当社が所有いたします。したがって購入者の皆さんには、利用権の譲渡となります。研修ごとに利用料などは一切発生いたしません。
購入者は、マニュアル、シート、ワークシートを社内研修などで、自由にコピーなどして利用できます。また活用しやすいように、編集、アレンジ、修正して使うこともできます。ただしマニュアル、シート、ワークシート等を第三者に譲渡、インターネット上などでの配布、レンタル、販売および著作物の制作に使用すること、雑誌等に無断で転用することは禁止させていただきます。

お問い合わせ

マニュアル等にご不明な点、利用上で気になる点などございましたら、下記までお問い合わせください。

info@m-advice.co.jp

株式会社マネジメントアドバイスセンター
〒160-0005 東京都新宿区愛住町２２ 岡田ビル１Ｆ
tel : 03-3356-6551　fax : 03-3356-6563

会社のしくみ　概要

目的

- 会社の目的、使命について学びます。
- 会社組織のしくみについて学びます。
- 企業人として自社の理解を高めます。

対象

新入社員

所要時間

９０分

教材

- シート①　会社の目的と使命
- シート②　会社組織のしくみ
- シート③　自社の会社を知ろう
- インストラクター用参考資料①　会社についての基本的な知識
- インストラクター用参考資料②　会社組織のしくみについて
- インストラクター用参考資料③　自社についての知識

これは商品の一部を抜粋したサンプルです
商品詳細は下記のページをご覧下さい
https://m-advice.co.jp/shop/item/s02/

時間配分

項目	分
はじめに	５分
会社の目的と使命	１５分
社会的責任を果たす	５分
会社組織のしくみ	２０分
仕事別のしくみ	１０分
会社組織のしくみ	３０分
まとめ	５分
合計	９０分

研修用マニュアル

このマニュアルには基本的な研修の流れが記載されております。

研修ニーズや商品にあわせて、手順や内容を加筆、修正して活用してください

これは商品の一部を抜粋したサンプルです
商品詳細は下記のページをご覧下さい
https://m-advice.co.jp/shop/item/s02/

mac

研修の内容と進め方

項目（時間）	ツール	内容と進め方
はじめに （５分）	✉ 主題の板書	● みなさんこれから、いよいよ新入社員として本格的な第一歩がはじまります。いま張り切って仕事をしていこうという気持でいっぱいだと思います。 ● そこで、早く企業人、組織人として活躍して頂くために、会社の目指す目的や使命をまず十分に理解しておきましょう。 ● 会社には、株式会社や、今はありませんが有限会社などいろいろあります。しかし、会社の種類や形態が違っても、会社には共通した目的と使命があることをご存知でしょうか。 ● また、会社は組織で仕事をしていくため、いろいろなしくみをつくって活動しています。どのようなしくみがあるのかも学んでいきましょう。 ● そのうえで、まずは自分の会社についての知識を十分に身につけておく必要があります。 ● なぜなら会社にはそれぞれ独自の目的やしくみがあるからです。例えば企業理念や組織体制などは大きく異なっています。 ● 会社についての情報は、入社前に会社案内などを読んである程度はつかんでいると思いますが。これをもう一度確認しておきましょう。 ● 会社には創立から現在までに至る歩みがあり、その歩みの中でさまざまな当社ならでは仕事に対する考え方や、やり方やノウハウが生まれてきています。これらを知ることによって自分の会社の持っている強味などもつかむことができます。それらついてもこれから説明していきます。

これは商品の一部を抜粋したサンプルです
商品詳細は下記のページをご覧下さい
https://m-advice.co.jp/shop/item/s02/

項目（時間）	ツール	内容と進め方
会社の目的と使命 （１５分）	シート①	● まず、会社の目的について説明しましょう。 ● 人が集まって組織がつくられるのですが、どんな組織にもそこには目的があります。 ● たとえば、みなさんがこれまで勉強してきた学校を例にしてみましょう。学校は、学生に勉強をさせることを目的として作られています。 ● その目的を果たすために、学校は校舎や施設を整えて、教師を採用し、学生に学問をさせるという活動をしていきます。 ● この活動のためには、当然、資金が必要です。学校の場合、そのお金は入学金や授業料また国からの助成金、あるいは卒業生からの寄付金で、学校経営を行なっています。 ● 会社の場合を見てみましょう。会社は学校法人などとは違いますので助成金や寄付金といったものはありません。 ● そこで会社も目前の製品・商品あるいはサービスをお客様に提供してもらい、つまりお客様のお金で会社組織を維持し、会社経営を行なっています。 ● 会社はお客様が唯一の頼りの綱で、お客様が会社の提供するものを購入してくれなければ、会社の経営は成り立ちません。 ● 会社が厳しいのは、お客様が満足するものを提供しようと、他の企業に負けずに切磋琢磨し競争しているからです。 ● お客様が満足するものを提供するには、いつも同じような製品や商品を売っていればよいというわけにはいきません。 ● そこで、よりよいモノを開発し提供するためには、新たな材料の購入や設備を整えるためのお金が必要ですし、また、そこで働く社員に支払う給料も上げていかなければなりません。ですから、それだけのお金も必要となります。 ● このように会社は、「より良い製品や商品、サービスをお

これは商品の一部を抜粋したサンプルです
商品詳細は下記のページをご覧下さい
https://m-advice.co.jp/shop/item/s02/

項目（時間）	ツール	内容と進め方
		客様に提供する」ことを使命とし、その結果で「社会に貢献する」ことを目的とします。 ● あなたの会社の企業理念、あるいは経営理念を見るとそれが掲げられているのがわかるでしょう。 ● しかし、それらの目的を実現するには、そのために必要なお金がなければ、どうにもなりません。 ● そこで会社は「お金を儲ける」ことがなんとしても必要となりますので、「儲けて利益をだす」ことが最大の目的となります。まずこのことを知っておいてください。 ● 仮に、会社が利益を上げられず、赤字となって倒産したら、どうなるでしょう。 ● 言うまでもなく、私たち自身や家族の生活は立ち行かず、お客様や関連する業者の人たちにも、大変な迷惑をおよぼします。 ● また、会社の事業に賛同して大事な資金を出資してくれた株主への還元という責任も果たせません。 ● それだけに「会社が利益を出し、会社を維持・発展させる」ことは、会社の最大の目的になるのです。
社会的責任を果たす （５分）		● 会社にはもう１つ重要な目的があります。目的と言うより守らなければならないことといってよいでしょう。 ● それは「社会的責任」を果たすということです。 ● 会社は「よりよい製品や商品、サービスをお客様に提供することにより社会に貢献する」と述べましたが、それを達成するためにはお金が必要であると言いました。 ● しかし会社活動を実践するためには「社会のルールに従わなければならない」ということです。それが「社会的責任」です。 ● 社会的責任の中には「社会性を果たすこと」「公共性を果たすこと」と「公益性を果たすこと」の３つがあります。 ● 社会的責任を果たすとは「消費者（お客さま）に対する

これは商品の一部を抜粋したサンプルです
商品詳細は下記のページをご覧下さい
https://m-advice.co.jp/shop/item/s02/

シート

研修で受講者に配布するシートです。

人数分コピーして講座に配布してください。

これは商品の一部を抜粋したサンプルです
商品詳細は下記のページをご覧下さい
https://m-advice.co.jp/shop/item/s02/

シート① 会社の目的と使命
シート② 会社組織のしくみ
シート③ 自分の会社を知ろう

シート①

会社の目的と使命

１．会社の目的は利益をあげること

会社は出資者から事業運営の資金である「カネ」を集めて、原材料や設備また製品や商品などの「モノ」を仕入れ「ヒト」を雇って、**“儲けを産みだすしくみ”**として設立されます。昔からこの「ヒト、モノ、カネ」を企業の３資源と呼びますが、現代の会社経営ではさらに、「時間」「情報」「環境」「見えざる信用」などが重要な経営資源となっています。これらの資源をいかに効率よく効果的に活用して、「お金を儲ける」かが最大の目的といえます。

お金を儲けるということは、ただ単にお金を稼ぐことが目的ではありません。会社が利益を上げることで出資者へ配当という形で還元が可能となります。配当ができない会社は投資する魅力がなく、新たな資金が集まらないためその会社の事業は先細りとなります。

会社が利益を上げて発展する必要性には、今よりさらにより良い製品・商品づくりのための設備の増強や、質の高いサービスをお客様に提供するため従業員のさらなる雇用、会社で働く私たち社員とその家族の生活をより豊かにすることと、同時に関連業者の人たちの雇用や仕事を安定させるといったことがあります。

会社の目的は「社会に貢献する」ことであるとよくいわれますが、それは会社がお金を儲けることではじめてできるわけです。その意味で会社は、常に利益を上げ続けることが求められており、社会的な使命を担っているのです。

これは商品の一部を抜粋したサンプルです
商品詳細は下記のページをご覧下さい
https://m-advice.co.jp/shop/item/s02/

ただここで利益をあげるということは、ただ儲ければよいと言っているのではありません。それは社会のルールに基づいて儲けていかなければならないということです。それを社会的責任と言います。社会的責任には「社会性」と「公共性」「公益性」の３つがありますが、常にそれを守って利益向上を果たしていかなければなりません。

２．会社と企業との違い

会社は「ヒト、モノ、カネ」等の資源を生かすしくみをつくり、企業活動を行っています。会社と同じように企業活動を行っているところは、この他にも役所、学校、農協、病院などいろいろあります。それらも一般に企業体としてとらえられますが、では、会社と企業では何が違うのでしょうか。

会社も企業も、通常は同じ意味で使われており、何らかの経済活動を行っている集合体を指します。ただし、会社という場合は商法にもとづいて法人として登記された単位を指します。法人として登記が義務づけられているのは、会社の保有する財産の範囲を明確にすることと税務署長への収支報告が法律で定められています。つまり会社とは法律上で定められている単位といえるわけです。これに対して企業という場合は、会社として登記されていない事業体に対しても使われます。一例を挙げると協同組合や信用組合あるいは個人経営の商店なども企業といえるわけです。

なお、会社には、株式会社、有限会社、合同会社、合資会社、合名会社など様々な種類があります。その違いは会社の出資形態や責任形態が異なるということを、理解しておきましょう。

インストラクター用参考資料

インストラクター用の参考資料です。

研修の補足、講義の参考資料として作成して下さい。

これは商品の一部を抜粋したサンプルです
商品詳細は下記のページをご覧下さい
https://m-advice.co.jp/shop/item/s02/

① 会社についての基本的な知識
② 会社組織のしくみについて
③ 自社についての知識

mac

参考資料②　会社組織のしくみについて

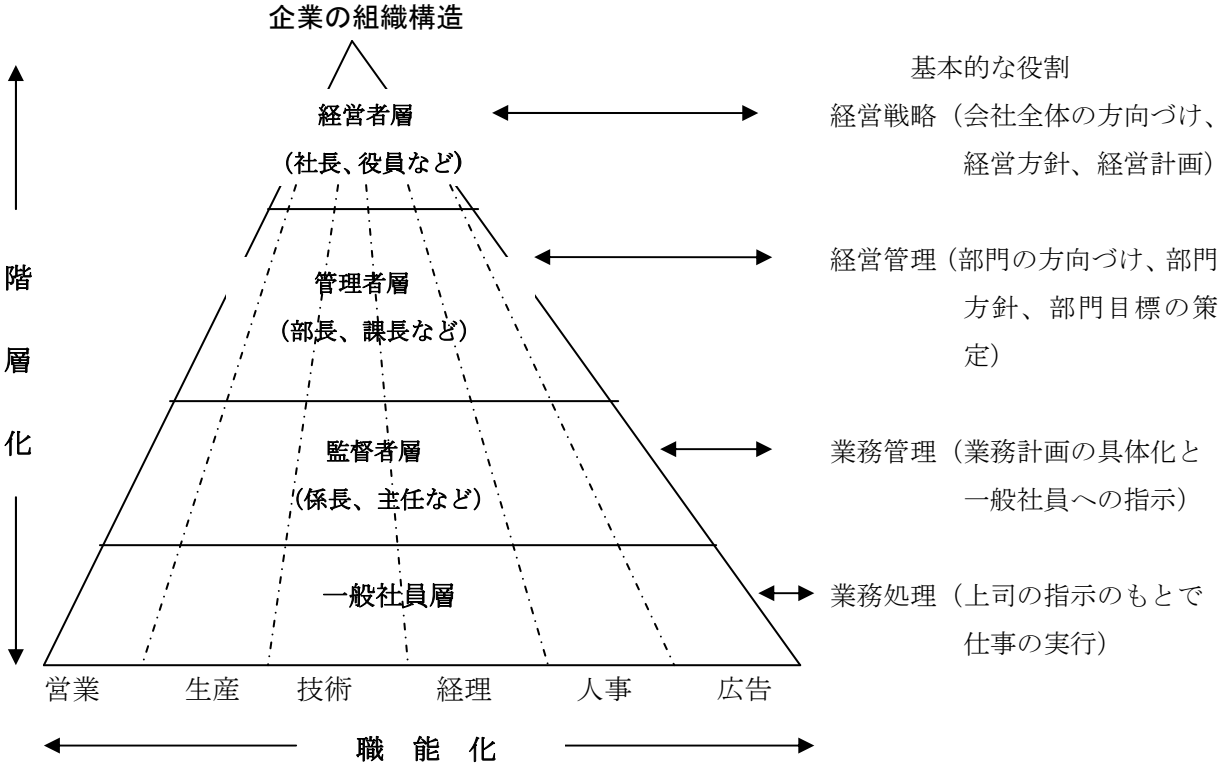
会社の組織のしくみ（組織構造）は、下図のピラミッド組織を黒板またはパワーポイントで示したうえで、次のような説明をしていくと新入社員にも分かりやすく理解できます。

【説明例】

企業組織のしくみは、ピラミッドをタテ割にした「職能化」とヨコ割にした「階層化」のマトリックスで構成されているのが一般的です。

タテ割の職能化とは、営業や生産、人事や経理など仕事別（部門別）に組織を区分していくもの。ヨコ割の階層化とは、経営者層、管理者層、監督者層、一般社員層と組織をヨコ割にして、それぞれ役割を分担していくものです。

企業の組織を、このようなタテとヨコに区分するには理由があります。それは組織という言葉には、もともと糸をタテとヨコに組み合わせて布をつくるという意味があり、一本一本の糸は弱くても、タテ糸とヨコ糸を組み合わせ布を織ると、丈夫でしっかりした布地ができあがります。

企業の場合も同様で、タテ・ヨコに仕事と人を組み合わせて組織を編成すると、効率的でしっかりした経営活動ができるのです。なお、企業の組織は軍隊のような階級組織ではありません。組織の階層化は社長や部長が偉いから上にいるというのではなく、それぞれの職位に応じて業務を分担し、その役割を担っていこうというものです。その意味でも、企業の組織ではそれぞれの階層の人が、自分の担当業務と役割を良く認識して活動していくことが求められています。

これは商品の一部を抜粋したサンプルです
商品詳細は下記のページをご覧下さい
https://m-advice.co.jp/shop/item/s02/